

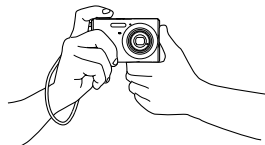
静止画を撮影する

カメラの正しい構えかた

カメラは、片手で持つと手ブレの原因になります。両手でしっかり持って撮影してください。

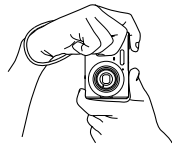
- 誤ってカメラを落とすことのないように、必ずストラップを取り付け、ストラップに指や手首をかけて操作してください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途に使用しないでください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。

横に持つとき



図のように持ち、脇をしっかり締めてください。

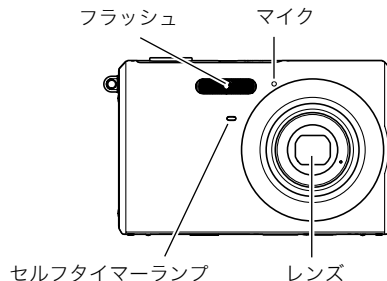
縦に持つとき



レンズよりフラッシュが上にくるように持ちます。

重要

- 指やストラップが図に示す部分をふさがないようにしてください。





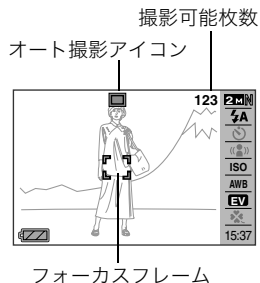
参考

- シャッターを押し切った瞬間にカメラがぶれたり、オートフォーカス動作中(シャッター半押し時)にカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、シャッターを静かに押し、シャッターを押し切った瞬間にカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときにはシャッター速度が遅くなるので、注意してください。

撮影する

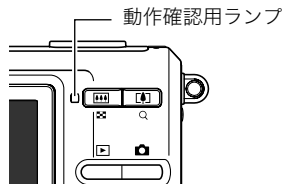
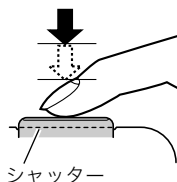
1. [📷] (撮影) を押して撮影モードにする

液晶モニターに、被写体(人や風景など)と、オート撮影アイコン“”が表示されていることを確かめます。オート撮影アイコン“”以外のアイコンが表示されるときは、“オート”に切り替えます(59ページ)。



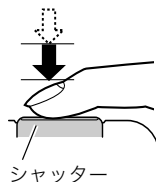
2. ピントを合わせる

フォーカスフレームを被写体に合わせ、シャッターを半押しします。オートフォーカス機能で自動的にピントが合い、フォーカスフレームと動作確認用ランプが緑になります。また、絞り値、シャッター速度、ISO感度が自動的に決まります。



3. 撮影する

ピントが合った状態でシャッターを最後まで押し込みます。



撮影した静止画は、順次、メモリーカードまたはカメラの内蔵メモリーに保存されていきます。

参考

- 絞りは、光の入り口の大きさを示します。絞り値が大きいほど光の入り口は狭くなります。本機では、自動的に調節されます。
- シャッター速度は、光を取り入れる時間を示します。シャッター速度が遅いほど光を取り入れる時間が長くなります。液晶モニターに表示されるシャッター速度の単位は秒です(1/1000秒など)。本機では、自動的に調節されます。

ピントが合っていない場合

フォーカスフレームが赤のまま、動作確認ランプが緑に点滅しているときは、ピントが合っていません(被写体との距離が近すぎるときなど)。もう一度カメラを被写体に向け直して、ピント合わせをしてみてください。

撮影した静止画を確認するには

撮影した静止画は少しの間液晶モニターに表示されますが、すぐに消え、次の撮影ができる状態になります。

撮影した静止画をゆっくり確認したいときは、**【▶】**(再生)を押して再生モードにします。**【◀】****【▶】**を押すと、前後の画像を確認することができます。

撮影モードに戻るには

【📷】(撮影)を押します。

■ シャッターを半押しせずに一気に押し込んだときは

シャッターを半押しせずに一気に押し込んでも、静止画を撮影することができます。ただし、クイックシャッター(73ページ)の設定状態により、カメラは次のように動作します。

クイックシャッターが“入”のときは

通常のオートフォーカスよりはるかに高速でピントを合わせるので、シャッターチャンスを逃さず撮影できます。動きの速い被写体を撮影するときに便利です。

- 正確にピントが合わない場合があります。
- お買い上げ時はクイックシャッターが働く状態になっています。

クイックシャッターが“切”のときは

通常のオートフォーカス機能によりピントを合わせたあと撮影します。

- シャッターを押し続けると、ピントが合わなくても撮影されます。
- 多少時間がかかっても正確にピントを合わせたい場合は、シャッターを半押ししてピントを合わせたあと撮影してください。

画像サイズを決める

デジタルカメラの画像は、小さな点(画素・pixels)の集まりです。画像サイズとは、その画像がいくつの画素でできているかを示すもので、横×縦の画素数で表します。お買い上げいただいたときは、7M (3072×2304)(画素・pixels)で撮影するように設定されています。画像サイズが大きいほど、メモリーに保存できる枚数が少なくなります。

- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→168ページ
ここでの設定は、静止画撮影時のみ有効です。
- 動画の画像サイズについて→56ページ

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で1番上の項目(画像サイズ)を選ぶ
3. 【◀】【▶】で画像サイズを選び、【SET】を押す

参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、画像サイズを変更することもできます(33、155ページ)。
- 画像サイズを選ぶ操作中は、以下の情報が切り替わり表示されます。
 - M(メガ、100万)単位での画像サイズ(3Mなど)
 - 画素数で示す画像サイズ(2048×1536など)
 - 最適なプリント用紙のサイズ

画素数(pixels)			プリント用紙のサイズ
大きい ↑	7M	3072×2304	A3プリント
	3:2	3072×2048	A3プリント
	16:9	3072×1728	HDTVサイズ
↓ 小さい	5M	2560×1920	A3プリント
	3M	2048×1536	A4プリント
	2M	1600×1200	L判プリント
	VGA	640×480	Eメール

- 3:2(3072×2048 pixels)を選ぶと、プリント用紙の一般的な横縦の比率(3:2)に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。
- HDTVとはHigh Definition TeleVision(高精細テレビ)の略です。HDTVの画面の横縦比は16:9で、従来のテレビの画面(4:3)より横長(ワイド画面)になります。本機はこのHDTVの画面(ワイド画面)の横縦比に合わせて撮影することができます。
- VGA(640×480 pixels)は、Eメールで画像を送るときに最適なサイズです。
- プリント用紙のサイズは、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。

画質を決める

本機では、「高精細-F」(画質優先)、「標準-N」、「エコノミー-E」(撮影枚数優先)のいずれかの画質を選ぶことができます。お買い上げいただいたときは、「標準-N」で撮影されるように設定されています。画質を優先したいときは「高精細-F」を、撮影枚数を優先したいときは「エコノミー-E」を選んでください。

- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→168ページ
ここでの設定は、静止画撮影時のみ有効です。
- 動画の画質について→56ページ

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“画質”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で画質を選び、【SET】を押す

参考


- 枝や木の葉が密集しているようなきめ細かい自然画や複雑な模様を撮影するときは、「高精細-F」にすることで、緻密な画質で撮影できます。

手軽に撮影する(easy(簡単撮影)モード)

easy(簡単撮影)モードに設定すると、難しい設定を心配せず、手軽に撮影することができます。初心者の方におすすめのモードです。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で下から2番目の項目(easyモード)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で“ ON”を選び、【SET】を押す
easy(簡単撮影)モードに設定されます。

4. ピントを合わせる

フォーカスフレームを被写体に合わせ、シャッターを半押しします。

5. 撮影する

ピントが合った状態でシャッターを最後まで押し込みます。

参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、easy(簡単撮影)モードに設定することもできます(33、155ページ)。

■ easy(簡単撮影)モードのメニュー設定について

easy(簡単撮影)モードでは「フラッシュ」、「セルフタイマー」、「画像サイズ」、「easyモード」の4つのメニュー項目のみが設定できます。それ以外の撮影設定タブ(155ページ)/画質設定タブ(156ページ)のメニュー項目は撮影に最適な状態に固定され、通常の撮影モードで設定した状態は反映されません。

重要

- 設定タブ(156ページ)のメニュー項目を設定したい場合は、以下の操作3で「easyモード」を**OFF**に設定して、通常の撮影モードに切り替えてから行ってください。

1. 【MENU】を押す

easyメニュー画面は、通常のメニュー画面よりも大きな文字で表示されます。



2. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

メニュー項目	設定内容
フラッシュ	⚡A (フラッシュオート)* / ⚡ (強制発光) / ⓧ (発光禁止)
セルフタイマー	🕒 (10秒セルフタイマー) / OFF*
画像サイズ	7M* / 3M / UGA
easyモード	ON / OFF*
メニュー終了	easyメニュー画面から抜けます。

- 「*」この印のある項目は初期値です。
- メニュー項目「フラッシュ」、「セルフタイマー」、「画像サイズ」の設定内容は、下記のページを参照してください。
 - 「フラッシュを使う」(48ページ)
 - 「セルフタイマーを使う」(52ページ)
 - 「画像サイズを決める」(42ページ)
- メニュー項目「easyモード」の設定内容は、下記の通りです。
 - ON**: easyモードのまま、他のモードに切り替えません。
 - OFF**: easyモードから通常の撮影モードに切り替えます。
- 吹き出しで簡単な設定内容の説明が表示されます。

静止画撮影時のご注意

■ 操作について

- 動作確認用ランプが緑に点滅しているときに電池カバーを開けないでください。今撮影した画像が正しく保存されない、記録されている画像が壊れてしまう、カメラが正常に動作しなくなる、などの原因になります。
- 不要な光がレンズに当たるときは、手でレンズを覆って撮影してください。

■ 撮影時の画面について

- 液晶モニターに表示される被写体の画像は、確認のための画像です。実際は、設定した画質で撮影されます。
- 被写体の明るさにより、液晶モニターの表示の反応が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。

■ 蛍光灯の部屋での撮影について

- 蛍光灯のごく微妙なちらつきにより、撮影画像の明るさや色合いが変わることがあります。

オートフォーカスの制限事項

- 次のような被写体に対しては、ピントが正確に合わないことがあります。
 - 階調のない壁など、コントラストが少ない被写体
 - 強い逆光のもとにある被写体
 - 明るく光っている被写体
 - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
 - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
 - 暗い場所にある被写体
 - 手ブレをしているとき
 - 動きの速い被写体
 - 撮影範囲外の被写体
- 動作確認用ランプが緑色に点灯している、またはフォーカスフレームが緑になっている場合でも、ピントが合わないことがあります。ピントが合わない場合は、フォーカスロック(73ページ)やマニュアルフォーカス(74ページ)で撮影してみてください。

ズーム撮影する


本機では、光学ズーム(レンズの焦点距離を変える方式)で3倍まで、デジタルズーム(画像中央をデジタル処理で拡大する方式)でさらに12~45.2倍(光学ズームとの併用)までのズーム撮影ができます。デジタルズームの倍率は、画像サイズ(42ページ)の設定によって異なります。


重要

- デジタルズームでは、倍率が高くなるほど撮影画像は粗くなります。ただし、本機では一部粗くならず撮影できる範囲があります(47ページ)。
- タイムスタンプ(81ページ)を設定して撮影すると、デジタルズームは働きません。

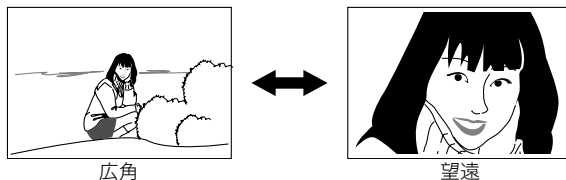
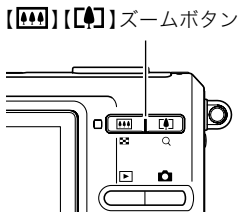
1. 撮影モードにする

2. ズームボタンを押して、ズームの倍率を変える

【】(望遠):被写体が大きくなり、写る範囲が狭くなります。

【】(広角):被写体が小さくなり、写る範囲が広がります。

→「光学ズームとデジタルズームの切り替えポイント」(47ページ)





3. シャッターを押して撮影する

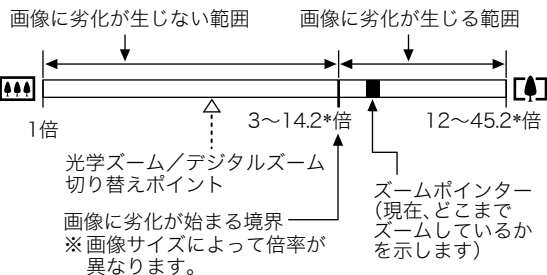
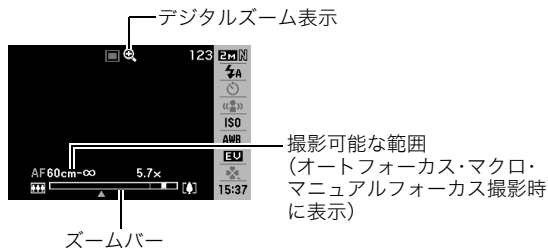
参考

- 光学ズームを動かせると、レンズの絞り値が変わります。
- 望遠で撮影するときは、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。シャッターを押す前であれば、光学ズームは使用できます。

■ 光学ズームとデジタルズームの切り替えポイント

手順2でズームボタンの【】を押したままにすると、光学ズームの倍率が最も高くなったところでズーム動作が停止します。いったん離し、続けてズームボタンの【】を押すとデジタルズームも作動し、さらにズームの倍率が高くなっていきます。

- デジタルズームに切り替わると、液晶モニターにデジタルズーム表示が現われます。また、ズームバーでおおよその倍率を確認することができます。



● 各画像サイズでのズーム倍率の違い

	画像に劣化が生じない範囲 (HDズーム含む)	画像に劣化が生じる範囲
7M	1倍	3倍 12倍
3:2	1倍	3倍 12倍
16:9	1倍	3倍 12倍
5M	1倍	3.6倍 14.2倍
3M	1倍	4.5倍 17.9倍
2M	1倍	5.7倍 22.6倍
VGA	1倍	14.2倍 45.2倍

- デジタルズームの倍率は画像サイズ(42ページ)の設定によって異なります。画像サイズが小さいほど高倍率になります。
- 一般的にデジタルズームを使用した画像は粗くなりますが、本機では、画像サイズが“5M(2560×1920 pixels)”以下の場合、画像は粗くならない範囲があります(HDズーム)。液晶モニターには、デジタルズームしても劣化しない倍率の境界が表示されており、その境界までは劣化せずにズームできます。劣化しない倍率は、画像サイズによって変化します。
- ズームバーのデジタルズームの範囲は、デジタルズームが“入”に設定されているときのみ表示されます。






■ デジタルズームをオフにする

ズームボタンの【**4**】を押しても、デジタルズームを使わないようにすることができます。ズームによって画像を劣化させたくないときにご利用ください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“デジタルズーム”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“切”を選び、【SET】を押す
 - デジタルズームを使えるようにするには、ここで“入”を選びます。

フラッシュを使う

撮影条件に合わせて、フラッシュの発光方法を切り替えることができます。

発光方法	説明
 フラッシュオート	露出(光の量や明るさ)に応じて自動的に発光します。 <ul style="list-style-type: none"> • お買い上げ時の設定です。
 発光禁止	フラッシュは発光しません。
 強制発光	フラッシュは常に発光します。 <ul style="list-style-type: none"> • 日中、逆光で被写体が暗く写るときに設定すると、明るく撮影できます(日中シンクロ撮影)。
 ソフト発光	露出に関係なく光量を抑えて発光します。 <ul style="list-style-type: none"> • フラッシュの反射など光量を抑えたい場合に使用します。
 赤目軽減	フラッシュオートと同じように自動発光します。フラッシュ撮影時に、人の目が赤く写る現象を軽減することができます。

フラッシュが届く範囲(ISO感度:オート時)

広角時：約0.1m～約3.5m

望遠時：約0.6m～約1.9m

- 光学ズームに合わせて撮影範囲は変化します。

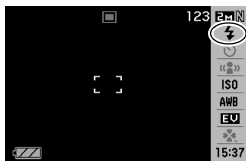
1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で上から2番目の項目(フラッシュ)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で発光方法を選び、【SET】を押す

液晶モニターにフラッシュの発光方法が表示されます。

4. シャッターを押して撮影する



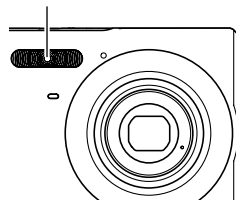
参考

- 操作パネルが“切”(35ページ)のときは、【▼】(🔋)を押すことで発光方法を選ぶことができます。

重要

- フラッシュ撮影時は、フラッシュが指やストラップで隠れないようにしてください。

フラッシュ



赤目軽減について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するため起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写される人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

重要

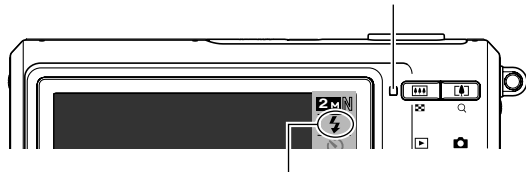
- 赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。
 - 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。撮影する前にフラッシュを見るように声をかけておいてください。
 - 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。


■ フラッシュの状態を確認する

シャッターを半押ししてピント合わせをしているとき、液晶モニターや動作確認用ランプでフラッシュの状態を確認できます。

動作確認用ランプ

フラッシュ充電中はオレンジ色に点滅します。



フラッシュ発光時は“”を表示

- 充電が完了して動作確認用ランプのオレンジ色の点滅が消えるまでは、次のフラッシュ撮影はできません。

■ フラッシュの強さ(光の量)を変える

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“フラッシュ光量”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】でフラッシュの強さを選び、【SET】を押す
-2(最も弱い)から+2(最も強い)の5つから選べます。

重要

- 被写体が遠すぎたり近すぎたりする場合、強さが変わらないことがあります。

■ フラッシュ撮影時の光量不足を補う (フラッシュアシスト)

フラッシュが届く範囲よりも遠い被写体を撮影すると、フラッシュの強さが充分でないため、被写体が暗く写ってしまうことがあります。フラッシュアシスト機能を使うと、撮影した被写体の明るさを補正し、フラッシュの光が遠くへ届いたときと似た効果が得られます。



フラッシュアシスト機能を使わないと



フラッシュアシスト機能を使うと

お買い上げいただいたときはフラッシュアシスト機能が働くように設定されています。フラッシュアシスト機能を使わないときは、次のように操作します。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“フラッシュアシスト”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“切”を選び、【SET】を押す
フラッシュアシスト機能を使うときは、ここで“オート”を選びます。

重要




- 被写体によっては思ったような効果が得られないことがあります。
- 下記の操作を行うと、フラッシュアシスト機能を使っても撮影結果にほとんど変化が表れないことがあります。
 - フラッシュの強さを変えたとき(50ページ)
 - 明るさを補正(EVシフト)したとき(75ページ)
 - ISO感度を切り替えたとき(78ページ)
 - コントラストの設定を切り替えたとき(81ページ)

■ フラッシュ使用時のご注意

- 被写体までの距離が遠かったり近かったりすると、適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間は、使用条件(電池の状態や周囲の温度など)により異なります。フル充電の電池では、数秒～7秒程度かかります。
- 暗い場所でフラッシュを発光禁止にして撮影すると、シャッター速度が遅くなり、手ブレの原因になります。カメラを三脚などで固定してください。
- 赤目軽減機能では、フラッシュは露出に合わせて自動的に発光します。明るい場所では発光しません。
- 外光や蛍光灯など他の光源があると、色味が変わることがあります。

セルフタイマーを使う

シャッターを押してから一定の時間後にシャッターが切れる(撮影される)ようにすることができます。

セルフタイマーの種類	説明
 10秒	10秒後に撮影されます。
 2秒	2秒後に撮影されます。 <ul style="list-style-type: none">シャッター速度が遅くなる条件下で撮影するときに使うと、手ブレ防止ができます。
 x3 (トリプルセルフタイマー)	10秒後に1枚、その後、次の撮影準備完了の1秒後に1枚、その次の撮影準備完了の1秒後に1枚の計3枚撮影されます。
切	セルフタイマー撮影はできません。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で上から3番目の項目(セルフタイマー)を選ぶ

3. 【◀】【▶】でセルフタイマーの種類を選び、【SET】を押す

液晶モニターにセルフタイマーの種類が表示されます。



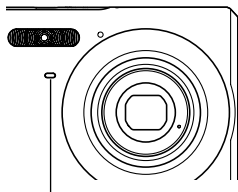
4. シャッターを押して撮影する

参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、セルフタイマーの種類を切り替えることもできます(33、155ページ)。

セルフタイマーを使って撮影すると

- シャッターを押してもすぐには撮影せず、設定した時間が経過すると撮影されます。設定した時間をカウントしている最中は、セルフタイマーランプが赤に点滅します。



セルフタイマーランプ


- カウントダウン中にシャッターを全押しすると、セルフタイマーを解除することができます。

参考

- トリプルセルフタイマーでは、次の撮影準備が終わると“1sec”と表示され、約1秒後に撮影されます。撮影準備ができるまでの時間は、画像サイズ、画質の設定やメモリーカードの有無、フラッシュの充電状態によって異なります。
- 連写撮影では、全てのセルフタイマーが使用できません。
- 下記の撮影では、トリプルセルフタイマーが使用できません。
 - ベストショット撮影の一部(“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”、“ムービー”)

何枚も連続して撮影する(連写)

シャッターを押すたびに1枚だけ撮影する1枚撮影と異なり、シャッターを押し続けている間、メモリーの空き容量いっぱいまで連続撮影ができます。

- 撮影モードにして【MENU】を押す
- “撮影設定”タブ→“連写”と選び、【▶】を押す
- 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押す
液晶モニターに“”が表示されます。
 - “切”を選ぶと、通常の一枚撮影になります
- シャッターを押して撮影する

シャッターを押し続けている間、連続撮影します。
シャッターから指を離すと、撮影は停止します。

重要

- 連写の速度は、使用するカードの種類によって異なります。内蔵メモリーを使用すると連写の速度は遅くなります。
- 電源を切ると、連写モードは自動的に“切”に設定されます。
- 連写では、露出/フォーカス位置は1枚目を撮影した際に固定されますので、2枚目以降は1枚目と同じ露出/フォーカス位置で撮影されます。
- 下記の撮影では、連写はできません。
 - ベストショット撮影の一部(“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”、“ムービー”、“ボイスレコード”)
- 連写中は、撮影が終了するまで、カメラを動かさないように注意してください。
- 連写中にメモリーの残り容量が足りなくなった場合、連写は途中で終了します。
- 連写の速度は、設定されている画像サイズや画質によって異なります。
- セルフタイマーは使用できません。

静止画に音声を加える(音声付き静止画)

静止画に音声を付け加える(録音する)ことができます。撮影した静止画の説明を自分の声で録音する、その場の雰囲気も音と一緒に残す、撮影された人の言葉も残すなど、自由にご利用ください。


- ひとつの静止画につき、最長約30秒まで録音できます。

■ 音声が録音できる状態にする

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“音声付静止画”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押す

■ 音声を録音する

1. シャッターを押して、静止画を撮影する

撮影した画像とともに“”が表示されます。

- 録音しないときは、【MENU】を押します。次の静止画を撮影できる状態になります。




録音可能時間

2. もう一度シャッターを押して録音を開始する

- ### 3. さらにもう一度シャッターを押して録音を終了する
- シャッターを押さなくても、約30秒経過すると録音は終了します。
- 音声付き静止画撮影をやめて、通常の静止画撮影に戻るときは、「音声録音できる状態にする」の手順3で“切”を選びます。

録音した音声を聞くには

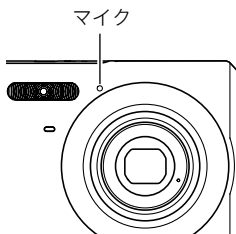
再生モードで音声付きの静止画を表示すると、液晶モニターに“”が表示されます。

【SET】を押すと、音声の再生が始まります。

- 操作について詳しくは89ページをご覧ください。

重要

- 指などでマイクをふさがないようにご注意ください。
- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。



参考


- 音声付き静止画は、パソコンに保存して、Windows Media Playerで再生することができます(139ページ)。
- 音声付き静止画のデータ形式などは以下のとおりです。
 - 画像形式:JPEG(拡張子は、JPG)
 - 録音形式:WAVE/ADPCM記録形式(拡張子は、WAV)
 - 音声ファイルサイズ:約165KB(約5.5KB/秒で30秒間録音時)
- 音声録音中に【▲】(DISP)を押しても、液晶モニターは切り替わりません。
- トリプルセルフタイマーを使った撮影、および連写撮影では、音声付きの静止画撮影はできません。ただし、撮影後の静止画に音声を追加することができます(106ページ)。

動画を撮影する

動画の画質を決める

撮影前に、動画の画質を選びます。動画の画質とは、再生したときの画像のきめ細かさや滑らかさ、美しさを示す目安です。画質を高品位にすると美しく撮影できますが、撮影できる時間は短くなります。

画質	画素数	転送レート	フレームレート
高品位-HQ	640×480 pixels	約10.2メガビット/秒	30フレーム/秒
標準-Normal	512×384 pixels	約6.1メガビット/秒	30フレーム/秒
長時間-LP	320×240 pixels	約2.45メガビット/秒	15フレーム/秒

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“ 画質”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で希望の画質を選び、【SET】を押す

動画の形式

撮影した動画は、AVI形式、Motion JPEG準拠で記録されます。本機で撮影した動画は、パソコンにコピーして下記のソフトで再生することができます。

- WindowsではWindows Media Player
- MacintoshではQuickTime



動画のサイズ

1分間撮影した動画のファイルサイズは、おおよそ以下のとおりです。


画質	サイズ
高品位-HQ	約72.8MB
標準-Normal	約43.6MB
長時間-LP	約17.5MB

動画を撮影する(ムービー)

動画とともに音声も記録されます。音声はモノラルです。

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ムービー”のシーンを選び、【SET】を押す
液晶モニターに“”が表示されます。

3. シャッターを押して撮影を開始する

- 撮影中は、“REC”が表示されます。



4. もう一度シャッターを押して撮影を終了する

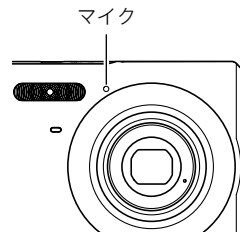
シャッターを押す前にメモリーがいっぱいになると、撮影は終了します。

- 撮影可能な動画のファイルサイズは、1ファイル最大4GBまでです。これを越えると自動的に撮影は終了します。



動画撮影時のご注意

- フラッシュは使えません。
- 音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
 - 指などでマイクをふさがないようにください。
 - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
 - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が録音されることがあります。
- 極端に明るい被写体を撮影しようとする時、液晶モニターの画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象)が、故障ではありません。この帯は動画にそのまま記録されます。
- 使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。このとき、“”と“”が点滅します。このため、最大転送速度が10MB/s以上のメモリーカードの使用をおすすめします。



- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。シャッターを押す前であれば、光学ズームは使用できます(46ページ)。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにしたとき、被写体のブレが目立つため手ブレにご注意ください。三脚を使用することをおすすめします。
- カメラの撮影範囲外ではピントが合わず、ぼけた画像になります。

撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)

逆光で人物を撮影したら顔が黒く写ってしまった、またはサッカーの試合を撮影したら選手の姿がブレて写ったなど、被写体や撮影条件によっては望みどおりの写真が撮れないことがあります。そのようなときは、本機に収録している撮影シーンから、望みのイメージに合ったシーンを選んでみてください。操作は【BS】を押して適切なシーンを選ぶだけです。

■ 撮影シーンの例

- “人物を写します”
- “風景を写します”




- “夜景を写します”
- “人物と夜景を写します”



■ シーンを選ぶ



1. 撮影モードにして【BS】を押す

ベストショットモードになり、15個のシーン一覧が表示されます。

- 赤枠で囲まれた画像が現在選択されているシーンです。
- 初期状態では“” (オート) が選択されています。



2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で枠を移動し、シーンを選ぶ


- 【▲】【▼】を押していくと画面が切り替わり、別のシーン一覧が表示されます。
- ズームボタンを押すと、選んだシーンの説明画面が表示されます。この画面で、どんな設定になるかを確認できます(61ページ)。ズームボタンを押すと一覧に戻ります。
- “オート”での撮影に戻るには、シーン番号1の“” (オート)を選んでください。シーンの一覧またはシーンの説明画面が表示されている状態で【MENU】を押すと、赤枠が“” (オート)へジャンプします。

3. 【SET】を押して、選んだシーンに決める

撮影できる状態に戻ります。

- 別のシーンに切り替えるまで、同じシーンの設定で撮影されます。
- 別のシーンを選び直すには、手順1からの操作を繰り返します。

4. シャッターを押して撮影する

- “ムービー”のシーンを選択した場合は、シャッターで撮影の開始と終了を行います(57ページ)。

重要

- “夜景を写します”、“花火を写します”ではシャッター速度が遅くなります。このシーンでは画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理をしています。このため、撮影が終わるまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。その間はキー操作をしないでください。また、手ブレを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。
- 本機にはオークションサイトへの出品物を撮影する“オークション”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した画像は専用のフォルダに記録されますので、パソコンで簡単に検索することができます(148ページ)。
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。
- 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの設定内容を変更することができますが、シーンを選び直したり、電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。変更した内容を何度も使いたいときは、カスタム登録してください(61ページ)。

シーンの説明画面での操作

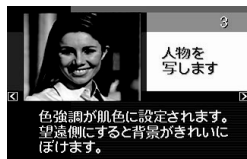
選んだシーンの設定内容を見たいときは、シーンを一覧でズームボタンを押してください。

説明画面では、以下の操作ができます。

- 15個表示に戻る：ズームボタンを押す
- 次の(前の)シーンを表示する：【◀】【▶】を押す
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る：【SET】を押す

参考

- シーンの説明画面で【SET】を押して撮影できる状態に戻った場合、【BS】を押すと、選んだシーンの説明画面が表示されます。



■ 自分好みの設定をベストショットに登録する (カスタム登録)

うまく撮れた静止画の設定内容をベストショットモードに登録して、同じ設定で撮影することができます。

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“BEST SHOT” (新規登録)のシーンを選び、【SET】を押す
3. 【◀】【▶】で登録したい静止画を選ぶ
4. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す
登録したシーンには、“マイベストショット”という名前が付きます。

★ 重要

- 内蔵メモリーをフォーマット(122ページ)すると、カスタム登録したシーンファイルは消えてしまいます。

参考

- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- 登録したシーン番号は、登録した順にU1、U2・・・となります。
- 登録される設定内容は下記の通りです。
フォーカスモード、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュモード、ISO感度、測光方式、フラッシュ光量、フラッシュアシスト、フィルター、シャープネス、彩度、コントラスト
- あらかじめカメラに収録されているシーン以外に、最大999件まで登録できます。
- カスタム登録したシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」フォルダに保存されます(149ページ)。

マイベストショットを削除する

自分で登録(カスタム登録)したマイベストショットは以下の手順で削除することができます。

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. ズームボタンを押して、説明画面を表示させる
3. 【◀】【▶】で削除したいマイベストショットを選ぶ
4. 【▼】(⚡)を押す
5. 【▲】【▼】で“解除”を選び、【SET】を押す
選択したマイベストショットが削除され、次のシーン(マイベストショットまたは新規登録)が表示されます。
6. 【◀】【▶】で別のシーンを選び、【SET】を押す
 - 撮影できる状態に戻ります。

手ブレや被写体ブレを軽減する

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに画像がぼやけたり流れて見えることがあります。これはシャッターを押すときにカメラが動いたり（手ブレ）、被写体の動きが速すぎる（被写体ブレ）ことが原因です。ブレ軽減の機能を使って、このようなブレを少なくすることができます。

次のどちらかの操作でブレ軽減の機能を選んでください。

■ ベストショットから選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ブレ軽減”のシーンを選び、【SET】を押す


次に別のシーンを選ぶまで“ブレ軽減”のシーン設定で静止画撮影できます。

■ 操作パネルから選ぶ

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で上から4番目の項目（ブレ軽減）を選ぶ


3. 【◀】【▶】で“オート”を選び、【SET】を押す

- ブレ軽減撮影に設定すると、液晶モニターに“”が表示されます。
ブレ軽減の機能を使わないときは、ここで“切”を選びます。

参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、ブレ軽減を設定することもできます（33、155ページ）。

重要

- ISO感度を「オート」にしていないと、ブレ軽減の機能が働きません（78ページ）。
- フラッシュが自動で発光した、または強制発光やソフト発光に設定した場合、ブレ軽減アイコン“”は表示されていますが、ブレ軽減機能は働きません。
- ブレ軽減で撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きい場合、ブレを軽減できない場合があります。
- シャッター速度が遅くなる撮影をすると、手ブレによるブレを軽減できない場合があります。その場合は、三脚を使用してください。
- 撮影時の明るさに応じて、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行う場合があります。この場合、撮影が終了するまでの時間が長くなります。

フラッシュなしで明るく撮影する

暗い場所で撮影するとき、カメラの感度を上げることにより、フラッシュを使わなくても画像が暗くなるのを防ぐことができます。



通常の撮影
(フラッシュ発光時)



感度を上げた撮影

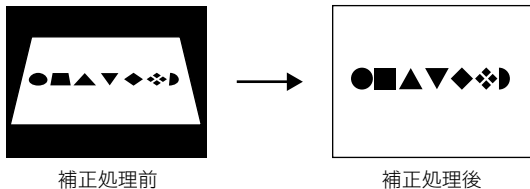
1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“高感度”のシーンを選び、【SET】を押す
3. シャッターを押して撮影する
次に別のシーンを選ぶまで“高感度”のシーン設定で撮影できます。

重要

- フラッシュが自動で発光した、または強制発光やソフト発光に設定した場合、高感度撮影機能は働きません。
- “高感度”のシーンで撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感がやや劣る場合があります。
- 極端に暗い環境では、思ったように明るく撮影できない場合があります。
- シャッター速度が遅くなる撮影をする場合、手ブレを防ぐために三脚を使用してください。
- 撮影時の明るさに応じて、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行う場合があります。この場合、撮影が終了するまでの時間が長くなります。

名刺や書類などを撮影する(ビジネスショット)

名刺や書類、ホワイトボードなどの撮影時に、撮影の立ち位置の都合によって正面からは撮影できない場合があります。ビジネスショットのシーンを選べば、斜めから撮影した画像を正面から撮影したかのように補正して撮影することができます。



ベストショットに2つのビジネスショットのシーンが用意されています。

- “名刺や書類を写します”
- “ホワイトボードなどを写します”



■ ビジネスショットのシーンを選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“名刺や書類を写します”または“ホワイトボードなどを写します”のシーンを選び、【SET】を押す

次に別のシーンを選ぶまでビジネスショットでの撮影ができます。

■ ビジネスショットで撮影する

1. ビジネスショットのシーンを選んだ後、シャッターを押す

補正確認画面が表示されます。

赤い枠内が補正される領域です。黒い枠が表示される場合、黒い枠は別の補正領域候補を示しています。別の補正領域候補が表示されない場合は手順3に進んでください。

- 補正候補が検出できない場合は、補正確認画面が表示されず、「この画像は補正できませんでした」というメッセージが表示されます。その後、補正されずに画像が保存されます。



2. 【◀】【▶】で補正領域を選ぶ

3. 【▲】【▼】で“補正”を選び、【SET】を押す

補正された画像が保存されます。

- 補正せずに保存するときは、“キャンセル”を選びます。



重要

- 被写体が液晶モニターに収まるような構図で撮影してください。被写体が液晶モニターからはみ出すと補正できません。
- 被写体と背景が同色の場合、補正できません。被写体と背景の境界がはっきりするような構図で撮影してください。
- ビジネスショットで撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。
- ビジネスショットでは、大きな撮影サイズに設定しても2M(1600×1200 pixels)の画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が2M(1600×1200 pixels)よりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。

古く色あせた写真を蘇らせる (よみがえりショット)

古く色あせた写真を撮影し、あせた色を補正することにより、古い写真を最新のデジタル写真として蘇らせることができます。

■ よみがえりショット機能で撮影する前に

- 写真が液晶モニターに収まるような構図で撮影してください。
- 写真と背景の境界がはっきりするような構図で、できるだけ画面いっぱいに撮影してください。
- 写真表面に光の反射が写り込まないように撮影してください。
- 縦向きで撮影された写真は、必ず写真が横向き(横長の状態)になるような構図で撮影してください。

■ 参考

- 写真の撮影時に、被写体に対してカメラが傾いていると、「台形歪み」(長方形の被写体が遠近の関係で台形として写ってしまう状態)が生じます。本機は写真の輪郭を検出し、画像を自動的に補正するため、撮影時の多少の台形歪みを気にする必要はありません。

■ よみがえりショットのシーンを選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“古い写真を写します”のシーンを選び、【SET】を押す
次に別のシーンを選ぶまで“古い写真を写します”のシーン設定で撮影ができます。

■ よみがえりショット機能で撮影する

1. シャッターを押して、写真を撮影する
 - 写真の輪郭確認画面を表示し、続けて撮影した元画像を保存します。ただし、写真の輪郭が検出できない場合は輪郭確認画面が表示されず、エラーメッセージが表示されます(165ページ)。
2. 【◀】【▶】で輪郭候補を選ぶ



3. 【▲】【▼】で“決定”を選び、【SET】を押す

画像の一部を切り抜く操作(トリミング)に入り、液晶モニターに画像を切り抜くための枠が表示されます。

- 補正せずに保存するときは、“キャンセル”を選びます。

4. ズームボタンを押して枠を拡大／縮小し、補正する画像の大きさを決める



5. 【▲】【▼】【◀】【▶】で切り抜きたい部分に枠を移動して補正する画像の位置を決め、【SET】を押す

あせた色を自動的に補正し、画像を保存します。

- 画像の周囲に余白を付けたくない場合は、撮影した写真よりも補正画像を小さく指定してください。
- 【MENU】を押すと色の補正を中止し、撮影した元画像を保存します。

重要

- よみがえりショット機能で撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。
- 下記の場合は、撮影した写真の認識ができません。
 - － 撮影した写真が液晶モニターからはみ出した場合
 - － 写真と背景が同色の場合
- よみがえりショットでは、大きな撮影サイズに設定しても2M(1600×1200 pixels)の画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が2M(1600×1200 pixels)よりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。
- 写真の退色度合いにより、補正の効果が表れない場合があります。

よりよい撮影のための設定

ピントの合わせかたを変える

ピント合わせの方法には、以下の5種類があります。これらをフォーカスモードといいます。最初はオートフォーカスモードが選択されています。

フォーカスモード	説明	ピントが合う距離**						
AF オートフォーカス	シャッター半押しで自動的にピントが合います。オートフォーカスモードは動画撮影時は使用できません。自動的にパンフォーカスモードになります。	自動調整 (約40cm~∞(無限遠)) ● 最短距離は光学ズームの位置で変わります。						
M/A マクロ(接写)	近くのを撮影するときに使用します。動画撮影時のマクロモードは固定焦点となります。	自動調整 (10cm~50cm) ● 最短距離は光学ズームの位置で変わります。						
PF パンフォーカス	比較的広い範囲にピントが合うように固定されます。オートフォーカスが難しい状況に使用します。	距離固定 ● ピントの合う範囲は光学ズームの位置で変わります。						
∞ 無限遠	ピントは無限遠に固定されます。景色などの遠景の撮影に使用します。	無限遠						
MF マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせることができます。	● ピントを合わせることができる範囲は光学ズームの倍率で変わります。 <table border="1"><thead><tr><th>光学ズーム倍率</th><th>範囲</th></tr></thead><tbody><tr><td>1倍</td><td>約10cm~∞</td></tr><tr><td>3倍</td><td>約60cm~∞</td></tr></tbody></table>	光学ズーム倍率	範囲	1倍	約10cm~∞	3倍	約60cm~∞
光学ズーム倍率	範囲							
1倍	約10cm~∞							
3倍	約60cm~∞							

**ピントが合う距離はレンズの表面からの距離です。

フォーカスモードは次の手順で変えます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“フォーカス方式”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】でフォーカスモードを選び、【SET】を押す

液晶モニターに、設定したフォーカスモードが表示されます。

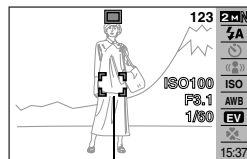
- 各フォーカスモードでの撮影方法は次の項以降で説明します。

フォーカスモードのアイコン

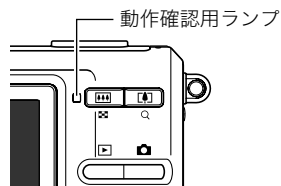


自動でピントを合わせる(オートフォーカス)

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームの中に入れて、シャッターを半押しする
ピント合わせが行われます。
ピントが合ったかどうかは動作確認用ランプとフォーカスフレームの点灯のしかたによって分かります。



フォーカスフレーム



状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせできない	緑点滅	赤点灯

2. シャッターを全押しして撮影する

重要

- オートフォーカスモードは動画撮影時は使用できません。自動的にパンフォーカスモードになります。

参考

- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- オートフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
例: AF ○○ cm - ∞
※ ○○ には数字が入ります。

近くを撮影する(マクロ)

- シャッターを半押ししてピントを合わせる
ピントの合わせかたはオートフォーカスモードと同じです。
- シャッターを全押しして撮影する

重要

- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがあります。
- 動画撮影時のマクロモードは固定焦点となります。

参考

- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカスの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- マクロ(接写)撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
例: ○○ cm - ○○ cm
※ ○○ には数字が入ります。

オートフォーカス/マクロモードでの撮影テクニック

オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)を変える

オートフォーカス(AF)の測定範囲を変更することができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“AFエリア”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

【●】 スポット：

中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(73ページ)を活用した撮影に便利です。

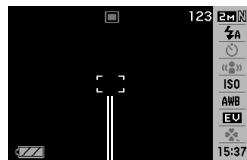
【田】 マルチ：

シャッターを半押しすると、9つの測距点の中から、カメラが自動的に最適な測距点を選びます。ピントが合ったと判断された複数の点が同時に緑色で点灯表示します。

参考

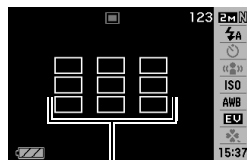
- “【田】 マルチ”に設定すると、9つのフォーカスフレームが表示されます。シャッターを半押しすると、ピントが合った場所のフォーカスフレームが緑色で表示されます。

“【●】 スポット”の場合



フォーカスフレーム

“【田】 マルチ”の場合



フォーカスフレーム

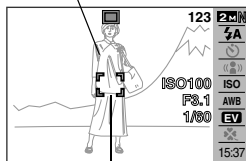
フォーカスロック

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックというテクニックを使います。

- AFエリアは、“**[L]** スポット” にしておきます。

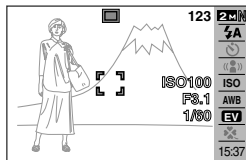
1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする

ピントを合わせたい被写体



フォーカスフレーム

2. シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図を決める



3. シャッターを全押しして撮影する

参考

- フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

クイックシャッター

クイックシャッター機能を使うと、シャッター半押しによるオートフォーカスが完了する前にシャッターを全押しすることで、通常のオートフォーカスよりはるかに高速でピントを合わせて撮影することができます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

- 正確にピントが合わない場合があります。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“クイックシャッター”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
入:クイックシャッターが機能します。
切:クイックシャッターが機能しません。
4. シャッターを一気に押し込んで撮影する
シャッター半押しを省略した場合、通常のオートフォーカスを作動せずにクイックシャッターで撮影されます。

ピントを固定して撮影する(パンフォーカス)

パンフォーカスモードでは、比較的広い範囲にピントが合うように調整されるので、オートフォーカス動作は行われません。

1. シャッターを全押しして撮影する

遠くを撮影する(無限遠)

∞(無限遠)にピントが固定されます。景色など遠景を撮影するときに使用します。車や列車の窓越しなど、オートフォーカスが難しいところからの景色の撮影にも活用できます。

1. シャッターを押して撮影する

手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)

被写体を拡大表示させた状態で、手動でピント調整ができます。走ってくる列車などを撮影するときに便利です。あらかじめ列車の通過点の目標物(電柱など)に手動で合わせておくことで、ピント合わせの操作をせずに素早く撮影ができます。

1. ピントを合わせたい被写体を黄色枠に入れる

2. 液晶モニターを見ながら【◀】【▶】でピントを合わせる

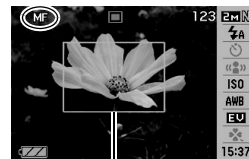
このとき、ピント合わせがしやすいように拡大表示になります。

【◀】: 近い側にピントを合わせる

【▶】: 遠い側にピントを合わせる

- 約2秒間操作をしないと、手順1の画面に戻ります。

3. シャッターを押して撮影する



ピント合わせの黄色枠

参考

- マニュアルフォーカス撮影時に光学ズーム(46ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。

例: MF ○○ cm - ∞

※○○には数字が入ります。

重要

- マニュアルフォーカスを選択しているとき、キーカスタマイズ機能で設定した【◀】【▶】の設定は使用できません(84ページ)。

明るさを補正する(EVシフト)

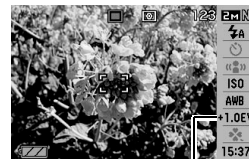
撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正值 : -2.0EV~+2.0EV

補正単位 : 1/3EV

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で下から3番目の項目(EVシフト)を選ぶ

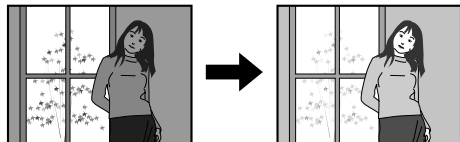


露出補正值

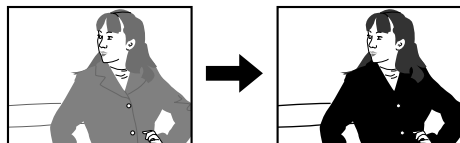
3. 【◀】【▶】で露出補正値を選ぶ

【▶】：＋方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。

※ベストショットの“逆光”も便利です。



【◀】：－方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。



露出補正値を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

4. 【SET】を押す

露出値が補正されます。

次に露出補正を変えるまで、設定した露出補正値で撮影できます。

重要

- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。









参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、露出補正することもできます(33、155ページ)。
- 測光方式をマルチパターン測光(画面全体を分割し、それぞれのエリアの測光データを元に露出を決めます)に設定しているときに露出補正を行うと、測光方式が自動的に中央重点測光(中央部を重点的に測光します)に切り替わります。露出補正値を“0.0”に戻すとマルチパターン測光に戻ります(79ページ)。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで露出値を補正することができます(84ページ)。ヒストグラム表示(82ページ)を確認しながらの撮影に便利です。

色合いを変える(ホワイトバランス)

曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写ることがあります。また白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかって写ることがあります。このような現象を防ぎ、光源に合わせて被写体を自然な色合いで撮影できるように調整する機能がホワイトバランスです。

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で下から4番目の項目(ホワイトバランス)を選ぶ
3. 【◀】【▶】で撮影条件を選び、【SET】を押す

 オートWB	: 自動的にホワイトバランスを調整
 太陽光	: 晴天時の野外での撮影用
 曇天	: 薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用
 日陰	: 晴天時の、ビルや木の陰などの撮影用
 昼白色蛍光灯	: 白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
 昼光色蛍光灯	: 昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
 電球	: 電球の雰囲気をもした撮影用
 マニュアルWB	: その場の光源に合わせて手動で設定します。詳しくは「マニュアルホワイトバランスを設定する」(77ページ)を参照してください。

参考

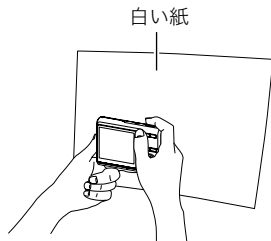
- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、ホワイトバランスを変更することもできます(33、155ページ)。
- ホワイトバランスの“オート”では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。このような場合は、太陽光、曇天など撮影条件を指定してください。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでホワイトバランスを変更することができます(84ページ)。
- キーカスタマイズ機能で“オート”を選ぶときは、“**AWB**” (オートWB)を選んでください。

■ マニュアルホワイトバランスを設定する

ホワイトバランスの“オート”や太陽光、曇天など光源を指定する固定モードは、複数の光源下など難しい環境では調整できる範囲に限界があり、自然な色合いで撮れないことがあります。マニュアルホワイトバランスを設定すれば、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスを設定するために、白い紙を用意してください。

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で下から4番目の項目(ホワイトバランス)を選ぶ
3. 【◀】【▶】で“**MWB** マニュアルWB”を選ぶ
液晶モニターには、前回設定したバランスで被写体が表示されます。この設定で使う場合は、手順5に進んでください。

4. 撮影場所で画面全体に白い紙を写した状態でシャッターを押す
“完了”と表示されたらホワイトバランスの調整は完了です。



5. 【SET】を押す
ホワイトバランスを決定し、撮影ができる画面に戻ります。
 - 設定したホワイトバランスは電源を切っても保持されません。

ISO感度を変える

ISO感度とは、光に対する感度を表したものです。数値が大きいくほど感度が高くなり、暗い場所での撮影に強くなります。シャッター速度を速くしたいときにもISO感度を高めます。同じ撮影条件下ではISO感度を高くするとシャッター速度は早くなりますが、画像は多少ざらついた感じ(ノイズが増加した画像)になりますので、きれいに撮りたいときはなるべくISO感度を低くしてください。

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で上から5番目の項目(ISO感度)を選ぶ
3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す
オート : 撮影条件により自動調整します。
ISO 50 : 感度が低い
ISO 100
ISO 200
ISO 400 : 感度が高い

参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、ISO感度を変更することもできます。(33、155ページ)。

重要

- ISO感度を上げてフラッシュ撮影すると、近くの被写体の明るさが適正にならない場合があります。
- 動画撮影では、ISO感度がどこに設定されていても、常に“オート”に設定されます。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでISO感度を変更することができます(84ページ)。

光の測りかたを変える(測光方式)

測光方式とは、被写体のどの部分の露出を測るかを決定する方式のことです。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“測光方式”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す



マルチ(マルチパターン):

画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。測光結果の明暗パターンによって撮影環境をカメラが自動的に判断し、露出を決定します。さまざまなシーンで失敗の少ない露出が得られます。



中央重点:

中央部を重点的に測光します。カメラ任せではなく、自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。



スポット:

センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。



重要

- “マルチ”設定時にEVシフト(75ページ)を行うと、測光方式が自動的に“中央重点”に切り替わります。EVシフトを“0.0”に戻すと、元の測光方式に戻ります。
- “マルチ”設定時は、撮影モードの情報表示に戻ったときにアイコンが表示されません(153ページ)。

参考

- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで測光方式を変更することができます(84ページ)。

全体の色調を変える(フィルター)

フィルター機能を使用して、撮影時の画像の色彩効果を変更することができます。色彩効果用のレンズフィルターを装着して撮影したような画像になります。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“フィルター”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
設定できる内容: 切/白黒/セピア/赤/緑/青/黄/
ピンク/紫

鮮明さを変える(シャープネス)

撮影される画像の輪郭の鮮鋭度を設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“シャープネス”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(もっとも鮮鋭度が高い)から-2(もっとも鮮鋭度が低い)までの5段階から選べます。

色の鮮やかさを変える(彩度)

撮影される画像の色の鮮やかさを設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“彩度”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(色の鮮やかさがもっとも高い)から-2(色の鮮やかさがもっとも低い)までの5段階から選べます。

明暗の差を変える(コントラスト)

撮影される画像の明暗の差を設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“コントラスト”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(明暗がもっともクッキリする)から-2(明暗がもっとも平坦になる)までの5段階から選べます。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

撮影時に画像の右下に、日付や時刻を写し込むことができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“タイムスタンプ”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

例) 2007年12月24日 午後1時25分

日付 : 日付(2007/12/24)が写し込まれます。

日付+時刻 : 日付/時刻(2007/12/24 1:25pm)が写し込まれます。

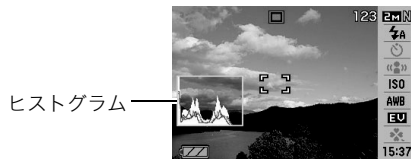
切 : 日付/時刻は写し込まれません。

重要

- タイムスタンプ機能を使用しなくても、DPOF機能を利用したり、印刷用ソフトの機能で、日付や時刻を入れてプリントすることができます(129ページ)。
- いったん画像に写し込まれた日付や時刻を変更したり、消すことはできません。
- 年/月/日の並び順は“表示スタイル”の設定(118ページ)にしたがって写し込まれます。
- 時刻の表示は“日時”の設定(9、118ページ)にしたがって写し込まれます。
- タイムスタンプを設定して撮影すると、デジタルズームは働きません。
- 下記の撮影では、タイムスタンプは無効となります。
 - ベストショット撮影の一部(“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”)

露出を確認する(ヒストグラム)

液晶モニター上にヒストグラムを表示させることで、露出(光の量や明るさ)をチェックしながら撮影することができます。再生モードでは撮影された画像のヒストグラムを見ることができます。



1. 【▲】(DISP)を何度か押す(37ページ)

参考

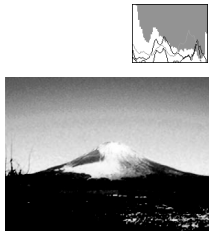
- キーカスタマイズ機能で“EVシフト”の切り替えを【◀】【▶】に割り当てると(84ページ)、ヒストグラムを確認しながら【◀】【▶】で露出を補正して撮影することができます。

■ ヒストグラムの見かた

ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。もしもヒストグラムが片寄っていた場合は、露出補正(EVシフト)を行うと、ヒストグラムを左右に移動させることができます。なるべくグラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。さらに静止画ではR(赤)、G(緑)、B(青)の色成分が独立したヒストグラムも同時に表示されますので、色ごとに「赤成分がオーバー」「青成分がアンダー」のように各色の分布状況も直感的に把握することができます。

典型的なヒストグラムの例

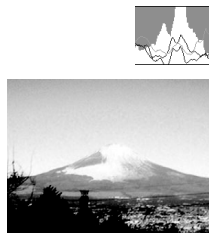
全体的に暗い画像は左寄りのヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起こしている可能性もあります。



全体的に明るい画像は右寄りのヒストグラムになります。また、あまり右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。



全体的に適度な明るさの画像は中央寄りのヒストグラムになります。



重要

- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となる訳ではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。
- フラッシュ撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムによりチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。

撮影を補助するいろいろな機能

撮影モードでは、次のことを行うことができます。

- 【◀】【▶】キーに機能を割り当てる
- 撮影時に構図の目安となる基準線(グリッド)を表示する
- 撮影した画像を確認する
- 設定を記憶させる
- 各種設定をリセットする

【◀】【▶】キーに機能を割り当てる (キーカスタマイズ)

【◀】【▶】キーに以下の5つのうちどれか1つの機能を割り当てることができます。割り当てた機能は撮影モード時(静止画および動画)にいつでも使えるので便利です。機能の説明は参照ページをご覧ください。

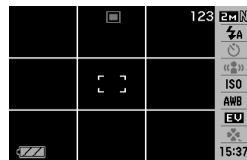
- 測光方式:光の測りかたを変える(79ページ)
- EVシフト:明るさを補正する(75ページ)
- ホワイトバランス:色合いを変える(77ページ)
- ISO感度:ISO感度を変える(78ページ)
- セルフタイマー:セルフタイマーの時間を設定する(52ページ)
- 切:【◀】【▶】キーに機能を割り当てない

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“左右キー設定”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で割り当てる機能を選び、【SET】を押す
【◀】【▶】を押すだけで、割り当てた機能を使うことができるようになります。

撮影時に構図の目安となる基準線(グリッド)を表示する

撮影時、液晶モニターに方眼を表示します。カメラを水平や垂直に保つのに便利です。



1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“グリッド表示”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
入:グリッドを表示します。
切:グリッドを表示しません。

撮影した画像を確認する(撮影レビュー)

お買い上げいただいたときは、撮影直後の画像を液晶モニターで確認することができます。この機能を使えなくすることもできます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“撮影レビュー”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定項目を選び、【SET】を押す
入：撮影した画像が約1秒間表示されます。
切：撮影した画像は表示されません。

画面上のアイコンの意味を確認する (アイコンガイド)




撮影モード時に液晶モニター上でアイコンの意味を確認しながら操作することができます(153ページ)。

- アイコンの意味を確認できる機能は、次の通りです。
 - 撮影モード、測光方式、フラッシュ、ホワイトバランス、セルフタイマー、EVシフトただし、測光方式、ホワイトバランス、セルフタイマー、EVシフトのアイコンの意味は、キーカスタマイズ機能(84ページ)を“測光方式”、“ホワイトバランス”、“セルフタイマー”、“EVシフト”に設定したときにのみ表示されます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“アイコンガイド”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
入：各種撮影機能を切り替えたとき、切り替えた機能を示すアイコンの近くに、アイコンの意味が表示されます。
切：アイコンの意味を表示しません。



重要

- アイコンガイドを“切”に設定すると、下記のアイコンも表示されません。
 - フラッシュモードの“A” (48ページ)
 - ホワイトバランスの“AWB” (77ページ)
 - 測光方式の“” (79ページ)

各種設定を記憶させる(モードメモリ)

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源を入れるたびに毎回設定をし直す手間がはぶけます。モードメモリで設定できる機能は、手順4の表の機能です。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“モードメモリ”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定したい機能を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

入:電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。

切:電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機能	入	切
ベストショット※1	最後の状態	ベストショット状態を解除
フラッシュ		オート
フォーカス方式		オート
ホワイトバランス		オート
ISO感度		オート
AFエリア		スポット
測光方式		マルチ
セルフタイマー		切
フラッシュ光量		0
デジタルズーム		入
MF位置		MF(マニュアルフォーカス)に切り替える前の位置
ズーム位置※2		ワイド端

※1 “入”の場合は前回の選択シーンとなり、“切”の場合は通常の静止画(オート)になります。

※2 ズーム位置では光学ズームの位置だけを記憶します。

重要

- モードメモリの“ベストショット”の設定を“入”にした場合に電源をオン/オフすると、“ベストショット”以外のモードメモリの設定が入/切のどちらに設定されていても、撮影設定はベストショットの各シーンの初期設定値となります。ただし、“ズーム位置”だけは記録されています。

各種設定をリセットする

本機の設定内容を初期値(ご購入直後の設定)に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」(155ページ)をご覧ください。

1. **[MENU]**を押す
2. “設定”タブ→“リセット”と選び、**[▶]**を押す
3. **[▲]****[▼]**で“リセット”を選び、**[SET]**を押す
 - リセットしない場合は“キャンセル”を選びます。



重要

- 下記の項目は、リセットしても初期値に戻りません(156ページ)。
 - ホームタイムの詳細設定
 - ワールドタイムの詳細設定
 - 日時設定
 - 表示スタイル
 - Language
 - ビデオ出力